

2003年4月18日
東日本旅客鉄道株式会社

東京駅丸ノ内本屋の重要文化財指定について

- ・ 当社が所有する東京駅丸ノ内本屋が、文化庁の文化審議会答申(平成15年4月18日)を受け、当社所有の施設としては初めて本年5月末(予定)に重要文化財の指定を受ける運びとなりました。
- ・ 当社の丸ノ内本屋は、首都東京の中心に位置し、「赤レンガ駅舎」として国民に広く親しまれてきた歴史的建造物であり、煉瓦造の建築としては最大規模を有し、わが国の明治・大正期を代表する建築物のひとつであります。
- ・ 当社としては、重要文化財の指定の意義・重要性を十分に認識した上で、今後も同建物の駅施設およびホテル等としての機能を保ちつつ、引き続き建物の価値の維持・保存に努めてまいります。
- ・ なお、当社は、丸ノ内本屋を可能な限り保存するとともに、創建当時の姿(3階建)への復原を行うこととし、調査を進めております。

東京駅丸ノ内本屋の概要

・ 建設経緯

明治41年	駅舎工事に着手(辰野金吾工学博士設計)
大正3年	駅舎開業
大正12年	関東大震災に遭うが大きな被害なし
昭和20年	空襲によりドーム部分および本屋3階部分が焼失
昭和22年	2階建で修復〔現在に至る〕

・ 建物概要(現状)

所在地	: 千代田区丸の内一丁目1番3号
建築面積	: 7,821 m ²
延床面積	: 19,600 m ²
最高高さ	: 30m
階数	: 地下1階、地上2階(一部3階)
構造	: 鉄骨煉瓦造

文化財指定内容

名 称	東京駅丸ノ内本屋
員 数	一棟
構造及び形式	鉄骨煉瓦造 建築面積 7,821.39 m ² 2階建、一部3階 スレート葺
所 有 者	東日本旅客鉄道株式会社
所 在 地	千代田区丸の内一丁目1番3号

「東京駅丸ノ内本屋」についての文化庁作成資料

東京駅丸ノ内本屋 一棟
東京都千代田区 東日本旅客鉄道株式会社

指定基準

「意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの」

説明

東京駅丸ノ内本屋は、皇居から東へ一直線に延びる通称行幸通りの正面に位置している。

明治41年3月25日着工、大正3年12月14日に竣工した。設計は辰野金吾で、辰野葛西事務所によって実施案がまとめられた。

南北折曲り延長約335mに及ぶ長大な建築で、中央棟の南北に両翼を長く延ばし、建設当初は、地上3階建であった。建築様式は、いわゆる辰野式フリー・クラシックの様式になる。

東京駅丸ノ内本屋は、わが国鉄道網の起点となる停車場の中心施設であるとともに、明治の市区改正計画に基づき建設された首都東京を象徴する貴重な建築である。

煉瓦を主体とする建造物のうち最大規模の建築で、当時、日本建築界を主導した辰野金吾の集大成となる作品として、価値が高いといえる。